

—————編集後記—————

本号の特集は「女性とサバイバル」。困難にはいろいろあるが、東日本大震災とフクシマ原発事故は、私たちがともに経験することになった最大級の困難である。被災地に生きる人々とともに、3.11後の世界を生き抜いていくためにすべきこと出来ることを考えていきたい。(Y.I.)

女性学の奥の深さを授業担当させていただいている中で痛感しています。学生たちと向き合い、学ぶ時間を大切に、すこやかな学生生活の一助が多くの文献や論文より学べる環境に女学院らしさを感じます。学びを続けていきたいと思います。(N.I.)

最近、法政大学の学生が卒業制作として撮った「ちひろ」という映画を見る機会がありました。それまでずっと友達にも話せなかった自閉症の妹のことを兄が撮った映像は、兄の人としての成長を逆照射して深く心に残りました。本誌の学生懸賞論文も、若い人が成長するきっかけとなってくれるよう願っています。(M.T.)

今回の特集テーマは、女性とサバイバルでした。女性は生きる中で、女性であるがゆえの困難に直面します。その困難を生き抜く女性の力強さとともに、法制度上の整備の必要性を痛感します。今回も多くの方が投稿してくださいました。女性学評論がますます活発な情報発信へとつながることを期待しています。(M.Y.)

.....